

# このひとをじっくり探してみますか？

## 第18回

### 北川千代 きたがわ ちよ

(明治27年6月14日～昭和40年10月14日)



肖像写真

北川千代は、明治二十七年(一八九四年)六月十四日に榛沢郡大寄村(現在の深谷市上敷免)で生まれ、父・俊は日本煉瓦製造株式会社の上敷免工場長を務めており、当時としては大変進歩的な人物で、夫婦平等、子どもも長幼男女の別なく平等に扱い、家の中は自由な雰囲気だったようです。

千代は恵まれた環境で育ちますが、煉瓦工場で働く職工やその子弟たちと自分との格差を肌で感じ、不平等や差別を嫌う女性へと成長していきます。

明治三十八(一九〇五)年に上京

し、東京の三輪田女学校在学中から雑誌『少女世界』や『少女の友』に投稿するなど創作を始め、大正初期から本格的に少女小説、童話を書き始めます。

また、社会主義婦人団体の『赤瀾』に参加するなど、女性の自立を求めて活発に活動を始めます。

そうした活動をする中で、ただ甘いだけの少女文学ではなく、社会的矛盾や現実を直視した作品を数多く発表します。

その中でも、上敷免の煉瓦工場を舞台にした『汽車の婆』の話では、汽車の掃除をする女性労働者が、工場長の娘である『私』に、汽車に落ちていたと言いつつ、きれいな目のおはじきをくれますが、後、そのおはじきは、工場長の家に取り入るために、わざわざ女性労働者が町で買ってきたものだとなり、複雑な思いが残る子ども心を描いています。



▲大手口公園(本住町)にある『北川千代文学碑』(左)、『北川千代の説明碑』(右)

また、太平洋戦争中に多くの児童文学作家が戦争協力の読み物を書いていた時代にも、千代は決して子どもたちを戦争に駆り立てるような作品を書くことはしませんでした。

晩年、入院した際には、仕事をするために右腕には注射はせず、作家としてペンを持ち続ける意志を強く語ったと言います。

昭和三十九(一九六四)年に第六

回児童文化功労賞を受賞して、昭和四十(一九六五)年十月十四日に没しました。

千代の死後、彼女の児童文学に対する情熱は、昭和四十四(一九六九年)に日本児童文学者協会が千代の名を冠する『北川千代賞』を創設したことで、次の世代へと受け継がれることとなり、『北川千代賞』は新人児童文学者の登竜門となりました。

### 用語の手引き

#### 『赤瀾会』

日本で初の女性による社会主義団体。『赤瀾』とは赤い波(さざなみ)を意味し、社会主義運動の流れに小さなさざなみ程度は起こせるのではないかとつけられた。労働者階級の女性にも呼びかけをしたのが特徴。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。

# 市長の深い話

深谷市長 小島 進



## 地域で、みんなで介護予防

団塊の世代が高齢者になった時代、日本は世界に類をみないスピードで高齢化が進んでいます。高齢になっても住み慣れた地域で、自立した生活を送れるように、介護予防や高齢者の社会参加などを重視しつつ、市民やボランティア団体などと市が協働しながら地域全体を支える体制をつくっていくことが重要です。

そのような地域の支え合いの一つとして、市では平成28年度から『地域への介護予防推進支援事業』に取り組んでいます。この事業は、地域の中に歩いて通える『通いの場』を作っていた

だけ、そこに集まって介護予防の体操を主体的に実施できるように支援していくものです。

介護予防の体操はとてもシンプルながら、誰でも簡単に行うことができます。このため仲間と一緒に楽しく続けられるのも魅力の一つです。

つまり、介護予防の効果だけではなく、仲間と会うことで孤立を防ぐことができます。

また、遠くへは行く、気軽に通える範囲の場所ですべての人が主体的に実施することにより、『通いの場』を通じて生きがいや役割を持つて生活でき、支え合える地域社会の実現を目指しています。

もちろん、活動していく中で、何か困ったときや相談があるときには市でもバックアップしていきます。

また、体操を始めてから3カ月間は、専門の講座を受けた『サポート』が一緒に支援します。

誰もが生きがいや役割を持つて生活でき、支え合える地域社会の実現を目指すため、ぜひ、皆さんが主体となり、お住まいの地域に『通いの場』を作ってくださいませ。ぜひお問い合わせください。

### ありがとうの手紙



優秀賞

小学校低学年の部  
きんじょのおじさんへ

幡羅小学校2年(現3年) 栗田悠史さん

ほくが、つう学ろにむかうと中、いつもきんじょのおじさんが、「学校は、たのしいかい。今日もがんばって行ってらっしゃい。」と、えがおで言ってくれます。ですから、わすれものがないか、ドキドキしているほくのこころもおちつくのです。ほくも、また、おじさんに会ったら、「おはようございます。」と、げん気な声で言って、おじさんをにっこりさせてあげたいです。

おじさん、声をかけてくれてありがとう。

### みんなの声BOX

Q 市のふるさと納税制度について、平成27年度の実績額と人気のある返礼品を教えてください。

A 約1億7,300万円(3,069件)の寄附をいただきました。また、最も人気の返礼品は『深谷ねぎ』でした。

寄附金額は県内第2位です。

また、他に人気のあった返礼品は大和芋・とろろ冷凍パック詰め合わせ、深谷牛薄切り肉、野菜の詰合せです。なお、一度に50万円以上の寄付をいただいたかたを対象に、深谷市のお礼品に加えて友好都市『岩手県田野畑村』の特産品を差し上げ、被災地の復興を支援しています。

問い合わせ 企画課 ☎574 - 8096